

学校教育目標	研究主題	学校経営理念	学校経営方針
思いや考えを伝え合い、主体的に学び合う児童の育成	自発的・自治的な活動を通して、集団の中で自分の役割を果たす子どもの育成～学級活動・異学年交流を通して～	少子高齢化、グローバル化など、多様で変化の激しい社会を子どもたちが「生き抜いていく力」を育成するため、主体的能動的な力を育成する。そのために、チーム学校の構築を目指し、確かな学力、豊かな人間性、心身ともに健康なバランスのとれた児童の育成を図る。	・チーム学校の構築を目指す（協働意識を強め合う教職員集団） ・主体的に考えて動ける児童の育成 ・学力向上のための授業改善 ・地域資源や人材バンクを有効活用した教育活動の推進 ・心の教育の充実のための道徳授業・人権教育・読書活動の推進 ・家庭、地域との連携を密に、地域を愛する児童の育成

中期計画＜令和3年度～令和5年度＞

	現状＜○強みと●弱み＞	目標＜3年後の到達指標＞	行動指針＜3年間の取組方針＞	評価	検証・評価＜3年間の総括＞
知	・高知県学力定着状況調査の合計の平均（5年生：+10P、4年生：-3.8P） ・CRT検査では研究教科の国語での正答率77% ・対話の良さを感じている児童の項目平均は4点中3.6となった。94%の児童が話し合うことの良さを実感できている結果となった。 ○教科カリキュラム表を作成し、学習計画表を日々活用し、ゴールイメージを明確にした授業を実施している。 ●児童アンケートの「勉強が分かる」が92.4%であった。 ●主体的に学んだり活動したりすることに弱さが見られる。 ●話し合い活動の系統性が明確化されていない。 ●ノート作りに課題が見られ、丁寧で分かりやすく、思考が深まるノートにはなっていない。	◇全国学力・学習状況調査において 全国平均正答率より+5P以上 ◇高知県学力定着状況調査において 全国平均正答率より+5P以上 1、主体的に学び・活動する児童の育成のための授業改善 ・自ら課題を見つけ、取組を進めることができる児童 ・児童を対象としたアンケートの「勉強が分かる」を94%以上にする 2、話し合い活動の更なる充実 ・考えが「広がった・深まった・話し合って良かった」と実感できる話し合い活動 ・児童を対象としたアンケートの対話の項目の平均が3.8以上となる 3、思考が深まる分かりやすいノートづくり	1、主体性を引き出す取組（授業改善） ・課題は児童が見付けることができるようにする ・振り返りを必ず行い、学習内容を定着させる ・自分たちで作り上げていくような活動にし、発信する 2、話し合い活動の充実 ・話し合い活動の系統性を明確にする（「話し合いの手引き」の活用） 3、ノート作り ・思考が深まるノート作りにする（振り返りを残す）		
徳	○人権・道徳参観日を年間1回実施し、保護者に授業を公開し、講演会も実施しており、参観者も多い。 ○道徳意識調査や授業力チェックシートを実施し、分析・考察・改善点を全体で共有できている。Q-U調査アンケートも年間2回実施し、共有・支援している。 ●アンケートの結果、「学校が楽しい」が95.5%の結果であった。 ●「高知の道徳」の活用が、まだまだ十分ではない。 【いじめ・不登校】 ○校内支援会が計画的に実施され、組織的に運営できている。 ○いじめ・不登校の早期発見・早期態勢のための体制ができている。 ●不登校児童、遅刻が多い児童があり、効果的な対策が確立されていない。 ●「いじめは絶対ダメである」というアンケートの結果が99%であり、「先生が話を聞いてくれる」は、93.9%であった。	1、学校が楽しいと思える取組 ・「学校が楽しい」と感じる児童を100% ・道徳意識調査の自尊感情の項目で、95%以上 ・Q-U調査アンケートの学級生活満足群95%以上 2、「高知の道徳」を活用し、家庭との連携 ・高知の道徳の活用と、体験活動と関わらせた道徳授業の充実 ・保護者へ働きかけ、家で年間6回程度は活用できるようにする 【いじめ・不登校】 1、校内支援会の充実 ・月1回の校内支援会で共通理解を図り、組織的な対応の定着 ・SCや関係機関との連携を図り、不登校をなくす 2、開発的予防的生徒指導の取組 ・「いじめは絶対ダメ」を100%、「先生は話を聞いてくれる」を97%にする	1、学校が楽しいと思える取組 ・年間2回のQ-U調査アンケートや道徳意識調査のアンケート実施 ・要支援群の児童への関りを全体で確認、開発的・予防的生徒指導 2、「高知の道徳」の活用 ・「高知の道徳」の活用を学期2回実施 ・「高知の道徳」を宿題として出し、家庭と連携 ・廊下への掲示で保護者への啓発 【いじめ・不登校】 1、校内支援会 ・月1回の支援会を実施（SCも参加） 2、定期的なアンケートの実施と分析結果を手立ての共有 ・学校生活アンケート（年間3回） ・Q-U調査アンケート（年間2回）		
体	○歯磨き習慣が付き、良い歯の学校として4年間表彰を頂いている。 ○学校作成の「個人カルテ」の体力の到達目標が、88%となった。 ●跳躍力と柔軟性に課題があり、スポーツテストの立ち幅跳びで0.16下がりが、長座体前屈で0.7下がった。 ●早寝達成率が低く、1年間で一番達成率が高かったのは、74%であったが、少し油断するとすぐに下がってしまう。	1、児童の体力向上を図る ・立ち幅跳びを7.2以上にする ・長座体前屈を6.5以上にする 2、基本的な生活習慣の確立を図る ・早寝達成率を78%にする ・電子画面の長時間視聴について啓発を行う	1、体力向上 ・抱え込みジャンプを継続して行う ・スキップや、ジャンプの運動を、継続する ・朝の会や、体育の準備運動として取り入れる 2、基本的な生活習慣の確立 ・学期1回、がんばりカードを実施する ・家庭を巻き込み、早寝達成を見える化する ・見える化したものを使って学級で指導を入れる		
横断	【防災】 ○地域や保護者の協力が得られやすい。 ○防災学習週間の位置付けにより、計画的に防災学習を実施できている。 ●防災キャンプや地域を巻き込んだ避難訓練など、様々な形で防災学習がまだ実施できていない。 【働き方改革】 ○風通しの良い職場であり、相談や対応が素早くできる。 ○カエルボードの設置により、時間を意識している人が増えた。 ●若年教員も多く、指導内容も含めて時間外勤務がなかなか減らない。 ●定時退庁日を設定しているが、守れていない状況である。 ●保護者の学校行事に対する思いが大きく、変えづらい雰囲気がある。 【効果的なOJT】 ○ブロックで共有したり、話し合ったりする教職員の風土がある。 ●若年教員の育成を意図的・計画的・継続的に行う必要がある。 【新しい学習スタイルの実践】 ○電子黒板を活用した授業づくりに取組んでいる。 ●授業の中で、タブレット端末の効果的な活用まで至っていない。	【防災】 1、防災教育の推進 ・地域を巻き込んだ防災キャンプの実施 ・様々な形や時間帯での避難訓練の実施 ・地域や保育所を巻き込んだ避難訓練の実施 ・興津小学校との連携 【働き方改革】 1、ストレスを貯めない働き方 ・週1の退庁日を厳守し、ストレスを減らす ・全ての会議を予定時間内に終了 ・行事の見直しと精選 ・各学年、教科別の教材データや掲示物の整備をし、活用する 【効果的なOJT】 ・メンター制の導入により、チーム会「ちょこっと塾」を月2回程度実施し、若年教員の主体的な実践に生かす 【新しい学習スタイルの実践】 ・全国学力・学習状況調査や県版学力定着状況調査において全国平均正答率より+5P以上になるように思考を深め、協働的な学習を実践するためのツールとしてタブレット端末を活用する	【防災】 ・各学年、年間5時間以上の防災学習の実施 ・行政、地域、保護者を巻き込んだ防災学習（防災キャンプ）の実施と検証 ・計画的な避難訓練の実施（年間7回程度） ・興津小学校（R6統合）と合同での防災教育と避難訓練の実施 【働き方改革】 ・金曜退庁日の定着を図る ・全ての会議を予定時間内に終了できるようにする ・行事の見直しを、保護者に理解を求める 【効果的なOJT】 ・メンター長が企画・運営し、研修コーディネーターの指導・助言のもと、全教職員がメンターとなり、学校全体で人材育成に努める（メンター制の活用） 【新しい学習スタイルの実践】 ・プログラミング教育、ICTの活用により主体性や意欲を引き出す協働学習の充実を図る ・一人一人の学習進度や学習定着状況調査に応じて学ぶ力を引き出す方法の一つとしてタブレット端末を個別指導に活用する		

短期計画【知】		目標達成に向けた取組		中間検証	評価	年度末検証
目標＜単年度の到達指標＞		項目＜振計＞【担当】	具体的な取組	取組の評価指標	＜4～8月の取組を検証＞	＜到達指標の達成状況を検証＞
1年目 （令和3年度）	◇全国学力・学習状況調査において 全国平均正答率より+3P以上 ◇高知県学力定着状況調査において 全国平均正答率より+3P以上 1、主体的に学び・活動する児童の育成のための授業改善 ・自ら課題を見つけ、取組を進めることができる児童 ・児童を対象としたアンケートの「勉強が分かる」を92%以上にする 2、話し合い活動の更なる充実 ・考えが「広がった・深まった・話し合って良かった」と実感できる話し合い活動 ・児童を対象としたアンケートの対話の項目の平均が3.6以上となる 3、思考が深まる分かりやすいノートづくり	1. 教師の授業力向上 ＜Ⅰ2(1)＞【学習部】 2. 学力向上 ＜Ⅰ1(3)＞【学習部】 ＜Ⅱ1(2)＞【学習部】 ＜Ⅳ1(1)＞【学習部】 ＜横断2(3)＞【学習部】 ＜Ⅰ2(1)＞【学習部】 ＜Ⅴ1(2)＞【1年担任】 3. ノート作り ＜Ⅰ2(1)＞【学習部】	◇国語科を中心とした授業研究の実施 ◇学習計画表で単元のゴールと学習の流れを児童と共有 ◇県内で実施される研修会への参加 ◇朝学習や帯タイムの継続 ◇学校支援ボランティアの協力による放課後加力の実施 ◇生活や総合的な学習の時間における学習のまとめ方の工夫 ◇個人カルテをもとにした個別指導 ◇教科カリキュラムに基づいた各教科や領域、行事等での学校資源や地域人材の活用と見直し ◇低・中・高の発達段階に合わせた話し合い活動の手引きを作成する ◇スタートカリキュラムの活用と見直し ◇発達段階に応じた思考が深まるノート作り	◆全学年公開で、年間6回以上実施する ◆国語科をはじめ、他教科でも活用する ◆研究発表会（夏季・冬季）や他校の授業づくり講座に参加する ◆朝学習は算数、帯タイムは漢字、NIE、月1回の辞書引きを実施する ◆年間20回程度を計画し、実施する ◆模造紙や巻物、絵本等、様々なやり方で学習をまとめている ◆各学期末に個人カルテの進捗状況を共有する ◆各学年で学校林・ビオトープの活用や保育所・宅老所等との連携を図る。教科カリキュラムを加筆修正し、学期に1回、共有する ◆話し合い活動の手引きを使って、話し合い活動ができている ◆スタートカリキュラムの活用と次年度に向けた修正を行う ◆個人思考や振り返りを入れたノート作りができる	1. 1学期は1学年の公開授業研究を実施した。学習計画表は、国語科・算数科で全学年で作成・掲示しているが、学習の足跡を残すことについては、今後の課題である。「勉強が分かる」の肯定的評価は92.8%であった。つけたい力を意識した活動を継続する。 2. 朝学習、帯タイム、放課後加力共に、計画通り実施できた。学習のまとめ方については、児童の発達段階に応じて工夫されたまとめができていた。個人カルテの進捗状況を全教職員で確認できた。保育所や宅老所等との連携は新型コロナウイルスの影響でできていないが、学校林やビオトープを活用した学習については予定通り実施できた。手引きについては、今後は個人持ちにし、児童から出されたつなぎ言葉を随時追加し、語彙を増やしていくようにする。スタートカリキュラムに合わせた学習が進められており、1年生もスムーズな学校生活を送れている。 3. 2学期の校内研修で各学年のノートを持ち寄り、共通理解する時間を設け、思考が深まるノート作りに取り組む。	◇全国学力・学習状況調査全国平均との差 国語（+9.3P）算数（+9.8P） ◇高知県学力定着状況調査全国比 4年生国語（+9.3P）算数（+12.5P） 5年生国語（+6.1P）算数（+14.7P） 理科（+0.1P） 国語・算数が向上したのは、単元を見通した学習計画により、付けたい力を明確にした単元づくり、授業づくりによるものであると考える。また、朝学習や帯タイム、放課後加力等継続的な取組による効果が考えられる。今後も基礎学力定着に向けた様々な取組を継続するとともに、定着の弱い単元を中心に復習したり問題形式に慣れる手立てを行ったりして、課題改善に努めたい。 1. 日々の授業の中で、各学年の児童の実態に応じて、本時の課題を児童と共に考えたり、振り返りの時間確保と記述内容の充実を意識した取組を継続したりした。児童を対象としたアンケートの「勉強が分かる」の項目の達成率が95.5%であった。今後も、子どもたち一人一人が「できた。」「分かった。」を実感できる授業を目指していきたい。 2. 対話の項目平均は、3.8となった。98%の児童が授業の中で話し合うことの良さを実感できている結果となった。 3. 思考が深まるノート作りを目指して、各学年のノートを持ち寄り、交流する機会をもった。それぞれの学年に応じた課題や改善策が明確になり、その後のノート作りに生かすことができた。
	◇全国学力・学習状況調査において 全国平均正答率より+5P以上 ◇高知県学力定着状況調査において 全国平均正答率より+5P以上 1、主体的に学び・活動する児童の育成のための授業改善 ・自ら課題を見つけ、取組を進めることができる児童 ・児童を対象としたアンケートの「勉強が分かる」を93%以上にする 2、話し合い活動の更なる充実 ・考えが「広がった・深まった・話し合って良かった」と実感できる話し合い活動 ・児童を対象としたアンケートの対話の項目の平均が3.7以上となる ・学級活動や異学年交流において、問題解決に向けて主体的に話し合い、集団の中での役割を果たす実践力の育成 3、思考が深まる分かりやすいノートづくり	1. 教師の授業力向上 ＜Ⅰ1(5)2(1)＞【学習部】 2. 学力向上 ＜Ⅰ1(3)＞【学習部】 ＜Ⅱ1(2)＞【学習部】 ＜Ⅳ1(1)＞【学習部】 ＜横断2(3)＞【学習部】 ＜Ⅰ2(1)＞【学習部】 ＜Ⅴ1(2)＞【1年担任】 3. ノート作り ＜Ⅰ2(1)＞【学習部】	◇講師を招聘しての国語科の授業研究の継続 ◇学習計画表で単元のゴールと学習の流れを児童と共有 ◇県内で実施される研修会への参加 ◇朝学習や帯タイムの継続 ◇学校支援ボランティアの協力による放課後加力の実施 ◇生活や総合的な学習の時間における学習のまとめ方の工夫 ◇個人カルテをもとにした個別指導 ◇教科カリキュラムに基づいた各教科や領域、行事等での学校資源や地域人材の活用と見直し ◇低・中・高の発達段階に合わせた話し合い活動の手引きを活用する ◇講師を招聘しての学級活動の授業研究の実施 ◇スタートカリキュラムの活用と見直し ◇発達段階に応じた思考が深まるノート作り ◇「振り返りのマニュアル」を活用し、振り返りの量と質の向上に努め、授業改善に生かす	◆全学年公開で、年間6回以上実施する ◆国語科をはじめ、他教科でも活用する ◆研究発表会（夏季・冬季）や他校の授業づくり講座に参加する ◆朝学習は算数、帯タイムは漢字、NIE、月1回の辞書引きを実施する ◆年間20回程度を計画し、実施する ◆模造紙や巻物、絵本等、様々なやり方で学習をまとめている ◆各学期末に個人カルテの進捗状況を共有する ◆各学年で学校林・ビオトープの活用や保育所・宅老所等との連携を図る。教科カリキュラムを加筆修正し、学期に1回、共有する ◆話し合い活動の手引きを使って、話し合い活動ができている ◆各学期末に各学年の特別活動の実践報告を行う ◆全校集会（きりりタイム）・異学年交流を計画的に実施する ◆スタートカリキュラムの活用と次年度に向けた修正を行う ◆個人思考や振り返りを入れたノート作りができる ◆授業中または授業後のチェックをもとに個々の理解や伸びを把握する	1学期は講師を招聘しての授業研究を国語科と特別活動で実施した。学習計画表は昨年度に引き続き国語科と算数科で掲示しているが、国語科の授業において単元のゴールを板書でも毎時間提示することを2学期以降行っていくようにする。「勉強が分かる」の肯定的評価は、95%であった。 2. 朝学習、帯タイム、放課後加力指導は計画通り実施できている。個人カルテの進捗状況の確認と教科カリキュラムの加筆修正を夏休み・全学年で行い共有した。スタートカリキュラムを活用し、1年生も落ち着いて学習することができている。1学期に実施した児童を対象としたアンケートの対話の項目平均は3.7であった。各学年で児童が主体となった学級活動を行っているが、異学年交流は実施できなかったため、2学期に計画し実施する。 3. 夏休みの校内研修で各学年のノートを持ち寄り、交流する時間を設けた。2学期以降も条件を付けて振り返りを書かせるなど、思考が深まるノート作りに取り組む。	
	◇全国学力・学習状況調査において 全国平均正答率より+5P以上 ◇高知県学力定着状況調査において 全国平均正答率より+5P以上 1、主体的に学び・活動する児童の育成のための授業改善 ・自ら課題を見つけ、取組を進めることができる児童 ・児童を対象としたアンケートの「勉強が分かる」を94%以上にする 2、話し合い活動の更なる充実 ・考えが「広がった・深まった・話し合って良かった」と実感できる話し合い活動 ・児童を対象としたアンケートの対話の項目の平均が3.8以上となる 3、思考が深まる分かりやすいノートづくり					

短期計画【徳】		目標達成に向けた取組		中間検証	評価	
目標＜単年度の到達指標＞		項目 ＜振計＞【担当】	◆具体的な取組	◆取組の評価指標	年度末検証 ＜到達指標の達成状況を検証＞	
1年目 【令和3年度】	1、学校は楽しいと思える取組 ・「学校が楽しい」と感じる児童を96% ・道徳意識調査の自尊感情の項目で、94%以上 ・Q-U調査アンケートの学級生活満足群90%以上 2、「高知の道徳」を活用し、家庭との連携 ・授業での「高知の道徳」の活用と、体験活動と関わらせた道徳授業の充実 ・保護者へ働きかけ、家で年間3回程度は活用できるようにする 【いじめ・不登校】 1、校内支援会の充実 ・月1回の校内支援会にSCも参加し、共通理解を図る ・SCや関係機関と連携し、組織的な対応で不登校をなくす 2、アンケートの結果を生かした生徒指導の取組 ・「いじめは絶対ダメ」を100%、「先生は話を聞いてくれる」を95%にする	＜Ⅰ2(6)＞【人権主任】 【生徒指導】 ＜Ⅰ2(4)＞【人権主任】 【道徳教育推進教師】 ＜Ⅳ2(1)(2)＞ 【道徳教育推進教師】 ＜Ⅰ1(2)＞＜Ⅰ2(1)＞ 【道徳教育推進教師】 ＜Ⅱ1(3)＞【特別支援コーディネーター】 ＜横断1(1)＞【不登校担当】 ＜Ⅰ2(6)＞【生徒指導担当】	1、学校が楽しいと思える取組 ・Q-U調査アンケートや道徳意識調査のアンケート実施 ・要支援群の児童への関わり方を全体で確認、開発的・予防的の生徒指導 2、「高知の道徳」の活用 ・授業での「高知の道徳」の活用 ・「高知の道徳」を宿題として出し、家庭と連携 ・廊下への掲示で保護者への啓発 ◇月1回の校内支援会にSCも参加し、課題と対策の把握 ◇不登校をなくすために、SCとの連携と組織的な対応 ◇アンケートの結果を生かした開発的予防的な生徒指導の取組	◆年間2回のQ-U調査アンケートの実施 ◆要支援群の児童への関わり方を全体で確認し、開発的、予防的な生徒指導の取組を夏季休業中に全体で確認する ◆道徳意識調査を年間3回実施し、分析・考察、取組を全体で共有する ◆「高知の道徳」を授業で学期1回程度、家庭で年間3回程度活用し、活用方法について全体で共有する ◇SCも参加して月1回の支援会を実施する ◇定期的なアンケートの実施と分析結果や手立ての共有 ・年3回の生活アンケートと年2回のQ-U調査アンケートの実施と分析・手立ての共有	1. 1回目のQ-Uアンケート調査を実施し、結果を全体で共有し、要支援群の児童を中心に、気になる児童への関わり方を全体で確認した。学校は楽しいと感じている児童は98.6%だった。自尊感情は89.8%となり、児童への肯定的評価や自他を承認する取組が必要である。 2. 1回目の道徳意識調査を実施し、各ブロック及び全校の分析・考察を行い、改善策や2学期の取組を全体で共有した。1学期は「高知の道徳」を授業で3学年、家庭では4年活用。家庭との連携に関する学習連絡や四方十町作成の活用事例集を紹介し、活用方法について全体で共有した。 【いじめ・不登校】 1. 月1回のSCとの支援会を実施でき、共通認識が深まっている。不登校家庭と教育相談員を繋げることができた。 2. 「先生は話を聞いてくれる」の肯定的評価は98.6%であり、定期的な面談の実施も効果があると思われる。	A
	1、学校は楽しいと思える取組 ・「学校が楽しい」と感じる児童を98% ・道徳意識調査の自尊感情の項目で、95%以上 ・Q-U調査アンケートの学級生活満足群93%以上 2、「高知の道徳」を活用し、家庭との連携 ・授業での高知の道徳の活用と、体験活動と関わらせた道徳授業の充実 ・保護者へ働きかけ、家で年間4回程度は活用できるようにする 【いじめ・不登校】 1、校内支援会の充実 ・月1回の校内支援会にSCも参加し、共通理解を図る ・SCや関係機関と連携し、組織的な対応で不登校をなくす 2、アンケートの結果を生かした生徒指導の取組 ・「いじめは絶対ダメ」を100%、「先生は話を聞いてくれる」を96%にする	＜Ⅰ2(6)＞【人権主任】 【生徒指導】 ＜Ⅰ2(4)＞【人権主任】 【道徳教育推進教師】 ＜Ⅳ2(1)(2)＞ 【道徳教育推進教師】 ＜Ⅰ1(2)＞＜Ⅰ2(1)＞ 【道徳教育推進教師】 ＜Ⅱ1(3)＞【特別支援コーディネーター】 ＜横断1(1)＞【不登校担当】 ＜Ⅰ2(6)＞【生徒指導】	1、学校が楽しいと思える取組 ・Q-U調査アンケートや道徳意識調査のアンケート実施 ・要支援群の児童への関わり方を全体で確認、開発的・予防的の生徒指導 2、「高知の道徳」の活用 ・授業での「高知の道徳」の活用 ・「高知の道徳」を宿題として出し、家庭と連携 ・廊下への掲示と学校だよりで保護者への啓発 ・「家庭で取り組む高知の道徳」コーナーを設置し、各学期2回程度、全校児童が考えを伝え合う場を設け、道徳性を養う ◇月1回の校内支援会にSCも参加し、課題把握と支援方法の検討 ◇不登校をなくすために、SC、SSW、児童委員との連携と組織的な対応 ◇アンケートの結果を生かした開発的予防的な生徒指導の取組	◆年間2回のQ-U調査アンケートの実施 ◆要支援群の児童への関わり方を全体で確認し、開発的、予防的な生徒指導の取組を夏季休業中、冬季休業中に全体で確認する ◆道徳意識調査を年間2回実施し、分析・考察、取組を全体で共有する ◆「高知の道徳」を授業で学期1回程度、家庭で年間4回程度活用し、活用方法について全体で共有する ◇SCも参加して月1回の支援会を実施する ◇定期的なアンケートの実施と分析結果や手立ての共有 ・年3回の生活アンケートと年2回のQ-U調査アンケートの実施と分析・手立ての共有	1. Q-Uアンケート調査学級生活満足率は70%、道徳意識調査「自尊感情」の項目は、91.9%、学校生活アンケート「学校は楽しい」96.8%で、調査結果を全体で共有した。2学期は、縦断的授業のレクや東又まつり等の行事を通して、自己有用感や自己肯定感が高まっていこうとした。 2. 全学年で「高知の道徳」を家庭学習に取り入れて活用し、家庭との連携を図った。また四方十町発行の高知の道徳活用事例集活用の呼びかけや各学年の活用方法を全体で共有した。 【いじめ・不登校】 1. 月1回のSCとの支援会の実施と、スーパーバイザーの助言により児童理解が深まっている。SSWや児童委員、医療・福祉の専門機関とつながり、課題のある児童の支援を連携しながら行えた。	
	1、学校は楽しいと思える取組 ・「学校が楽しい」と感じる児童を100% ・道徳意識調査の自尊感情の項目で、95%以上 ・Q-U調査アンケートの学級生活満足群95%以上 2、「高知の道徳」を活用し、家庭との連携 ・高知の道徳の活用と、体験活動と関わらせた道徳授業の充実 ・保護者へ働きかけ、家で年間6回程度は活用できるようにする 【いじめ・不登校】 1、校内支援会の充実 ・月1回の校内支援会にSCも参加し、共通理解を図る ・SCや関係機関との連携し、組織的は対応で不登校をなくす 2、アンケートの結果を生かした生徒指導の取組 ・「いじめは絶対ダメ」を100%、「先生は話を聞いてくれる」を97%にする					

短期計画【体】		目標達成に向けた取組		中間検証	評価	年度末検証	
目標＜単年度の到達指標＞		項目 ＜振計＞【担当】	◆具体的な取組	◆取組の評価指標	＜4～8月の取組を検証＞	＜到達指標の達成状況を検証＞	
1年目 （令和3年度）	1、児童の体力向上を図る ・立ち幅跳びを6.8以上に ・長座体前屈を6.6以上に 2、基本的な生活習慣の確立を図る ・早寝達成率を70%にする ・電子画面の長時間視聴について啓発を行 う	1、体力向上 ＜Ⅰ2(7)＞【学級担任】 ＜Ⅰ2(7)＞【体育主任】 2、基本的な生活習慣の確立 ＜Ⅳ2(2)＞【生活部会】 ＜Ⅳ2(2)＞【学級担任】	◇全学年でのスポーツテストの実施 ◇朝の会でのジャックナイフストレッチ、抱え込みジャンプの運動の継続 ◇体育の準備体操の際のその場スキップの取組 ◇学期に1回の生活がんばりカードの実施 ◇朝の健康観察での就寝時刻を確認と、個別の指導 ◇児童保健委員会や生活部教員からの集会での発信・啓発 ◇生活調べの結果の周知と、学級指導の実施	◆一学期のスポーツテストの結果の分析から、体力向上ハンドブックを活用した運動を提案し、10月のスポーツテストで検証する ◆柔軟性や跳躍力を養う活動を週3日以上朝礼で取り入れている ◆体育の準備体操の深呼吸の前に、その場スキップを取り入れている ◇生活がんばりカードを学期に1回実施し、早寝70%を目指す ◇朝の健康観察で就寝時刻を確認し、個別に指導する ◇児童保健委員会や生活部教員から集会で発信する ◇生活調べの結果を児童・家庭・教職員に周知し、学級指導を行う	1. 5.6年生のスポーツテストの結果が、立ち幅跳び6.9、長座体前屈7.4となり、目標を大幅に上回った。 2. 早寝達成率は75%で、昨年度からの取組の成果が出ている。また、昨年1学期と比較すると起床率は78%(+8%)、電子画面71%(+15%)と上昇しており取組の相乗効果と考えられる。さらに集会で電子画面の長時間視聴について啓発も行った。	A	1. 12月に行った5・6年生のスポーツテストの結果から、立ち幅跳び、長座体前屈とも7.4となり、目標を上回った。また、各運動の継続に加え、縄跳び推進のためのジャンピングボードを設置した。 2. 1年間の早寝達成率は77%となり、取組により子どもたちの意識が向上してきている。電子画面の啓発は、6年の特別活動や全校朝礼で行った。
2年目 （令和4年度）	1、児童の体力向上を図る ・立ち幅跳びを6.8以上に ・長座体前屈を6.8以上に 2、基本的な生活習慣の確立を図る ・早寝達成率を75%にする ・電子画面の達成率を65%にする	1、体力向上 ＜Ⅰ2(7)＞【学級担任】 ＜Ⅰ2(7)＞【体育主任】 2、基本的な生活習慣の確立 ＜Ⅳ2(2)＞【生活部会】 ＜Ⅳ2(2)＞【学級担任】	◇全学年でのスポーツテストの実施 ◇朝の会でのジャックナイフストレッチ、抱え込みジャンプの運動の継続 ◇体育の準備体操の際のその場スキップの取組 ◇学期に1回の生活がんばりカードの実施 ◇朝の健康観察での就寝時刻を確認と、個別の指導 ◇児童保健委員会や生活部教員からの集会での発信・啓発 ◇生活調べの結果の周知と、学級指導の実施	◆一学期のスポーツテストの結果を分析しうちの子ども体力・運動能力向上プログラムを活用してメニューに取り組み、再度、10月に立ち幅跳び、長座体前屈の検証を行う ◆柔軟性や跳躍力を養う活動を毎日朝礼で取り入れている ◆体育の準備体操の深呼吸の前に、その場スキップを取り入れている ◇生活がんばりカードを学期に1回実施し、早寝75%を目指す ◇朝の健康観察で就寝時刻を確認し、個別に指導する ◇児童保健委員会や生活部教員から集会で発信する ◇生活調べの結果を児童・家庭・教職員に周知し、学級指導を行う	1. 5.6年生のスポーツテストの結果は、立ち幅跳びが6.3ポイント、長座体前屈が6.8ポイントと、立ち幅跳びについては下回った。朝のストレッチについては、全学年で毎日継続して行うことができた。 2. 早寝達成率は80%で、電子画面の達成率は71%となり、今年度の目標を上回ることができている。毎朝の早寝チェックも、児童の実態と結びついており活用ができている。終業式では、電子画面を含めた夏休みの生活について生活指導を行った。		
3年目 （令和5年度）	1、児童の体力向上を図る ・立ち幅跳びを7.0以上に ・長座体前屈を7.0以上に 2、基本的な生活習慣の確立を図る ・早寝達成率を78%にする ・電子画面の達成率を68%にする						

短期計画【横断】		目標達成に向けた取組		中間検証	評価	年度末検証
目標＜単年度の到達指標＞		項目 ＜振計＞【担当】	◆具体的な取組	◆取組の評価指標	＜4～8月の取組を検証＞	＜到達指標の達成状況を検証＞
1年目 令和3年度	【防災】 1. 防災教育の推進 ・地域を巻き込んだ防災キャンプを実施する ・様々な形や時間帯での避難訓練を実施する ・地域や、保育所を巻き込んだ避難訓練を実施する ・興津小学校との交流学習を進める 【働き方改革】 1. ストレスを貯めない働き方 ・週1の退庁日を厳守し、ストレスを減らす ・全ての会議を予定時間内に終了する ・行事を見直し、精選する ・各学年、教科別の教材データや掲示物の整備をし、活用する 【効果的なOJT】 ・メンター制の導入により、チーム会「ちよこつと塾」を月2回程度実施し、若年教員の主体的な実践を生かす 【新しい学習スタイルの実践】 ・全国学力・学習状況調査や県版学力定着状況調査において全国平均正答率より+3P以上になるように思考を深め、協働的な学習を実践するためのツールとしてタブレット端末を活用する	＜Ⅵ3(1)・Ⅱ1(1)＞【防災教育担当】 ＜Ⅳ2(1)＞【全学年】 ＜横断2(1)(2)＞【全教職員】 ＜Ⅰ1(2)・Ⅰ1(5)＞【加配教員】 ＜Ⅲ1(1)・Ⅲ2(1)＞【ICT担当】	◇地域を巻き込んだ防災キャンプの実施 ◇様々な形や時間帯での避難訓練の実施 ◇地域や保育所を巻き込んだ避難訓練の実施 ◇興津小との連携 ◇週1の退庁日の厳守でストレスの軽減 ◇会議の時間内終了の遂行 ◇行事の見直しと精選 ◇メンター制の導入による、チーム会「ちよこつと塾」の実施と若年教員を育成 ◇タブレット端末を利用した思考力の育成と協働的な学習の実践	◇各学年、年間5時間以上の防災教育の充実 ◇行政・地域、保護者を巻き込んだ防災キャンプの実施と検証 ◇年間7回程度の多様な避難訓練の実施 ◇R6年の統合に向けて、年間3回程度の興津小学校と防災を中心とした交流学習の実施 ◇毎週金曜日の一斉退庁日の定着を図る ◇すべての会議を予定時間内に終了する ◇行事の見直しをし保護者に理解を求める ◇メンター制の活用で、月2回のチーム会「ちよこつと塾」の実施で若手教員の育成を図る ◇プログラミング教育の年間計画を基に、タブレットの有効活用化を図る	【防災】 1. 自主防や保護者、役場職員に参加してもらい2日間の防災キャンプができた。下校時地震避難訓練や起震車体験も縦割り活動を取り入れ児童の意識が高まった。 【働き方改革】 会議の終了時間が厳守できるよう、レジュメに時間設定を記入していた。 【効果的なOJT】 日常的にベテランが気掛けて、若手に声掛けや指導ができていた。チーム会が定期的に実施できている。 【新しい学習スタイルの実践】 9月から各自にローマ字表をませ、週2の帯タイムでタイピング練習の時間を確保する。(タブレットタイム)	B
	【防災】 1. 防災教育の推進 ・地域を巻き込んだ防災キャンプを実施する ・様々な形や時間帯での避難訓練を実施する ・地域や、保育所を巻き込んだ避難訓練を実施する ・興津小学校との交流学習を進める 【働き方改革】 1. ストレスを貯めない働き方 ・週1の退庁日を厳守し、ストレスを減らす ・全ての会議を予定時間内に終了する ・行事を見直し、精選する ・各学年、教科別の教材データや掲示物の整備をし、活用する 【効果的なOJT】 ・メンター制の導入により、チーム会「ちよこつと塾」を月2回程度実施し、若年教員の主体的な実践を生かす 【新しい学習スタイルの実践】 ・全国学力・学習状況調査や県版学力定着状況調査において全国平均正答率より+4P以上になるように思考を深め、協働的な学習を実践するためのツールとしてタブレット端末を活用する	＜Ⅵ3(1)・Ⅱ1(1)＞【防災教育担当】 ＜Ⅳ2(1)＞【全学年】 ＜横断2(1)(2)＞【全教職員】 ＜Ⅰ1(2)・Ⅰ1(5)＞【加配教員】 ＜Ⅲ1(1)・Ⅲ2(1)(2)・Ⅲ2(1)＞【ICT担当】	◇地域を巻き込んだ防災キャンプの実施 ◇様々な形や時間帯での避難訓練の実施 ◇地域や保育所を巻き込んだ避難訓練の実施 ◇興津小との連携 ◇週1の退庁日の厳守でストレスの軽減 ◇毎日の業務のめどを立て、一定の時間で帰宅できるよう計画する(かえるボードの活用) ◇会議の時間内終了の遂行 ◇行事の見直しと精選、効率化 ◇メンター制の導入による、チーム会「ちよこつと塾」の実施と若年教員の育成 ◇タブレット端末を利用した思考力の育成と協働的な学習の実践 ◇プログラミング学習において講師招聘	◇各学年、年間5時間以上の防災教育の充実 ◇行政・地域、保護者を巻き込んだ防災キャンプの実施と検証 ◇年間7回程度の多様な避難訓練の実施 ◇R6年の統合に向けて、年間3回程度の興津小学校と防災を中心とした交流学習の実施 ◇毎週金曜日の一斉退庁日の定着を図る ◇月～木19時までの退庁日の定着を図る ◇すべての会議を予定時間内に終了する ◇行事の見直しや効率化を図り、保護者に理解を求める ◇すぐーの活用により、文書配付や出欠の確認等の軽減 ◇メンター制の活用で、月2回のチーム会「ちよこつと塾」の実施で若手教員の育成を図る ◇授業公開の後、「ちよこつと指導」で10分程度の指導を行う ◇プログラミング教育の年間計画を基に、タブレットの有効活用化を図る ◇年1回、教育委員会のICT指導員に指導を受け、授業に生かす	【防災】 1学期は地震避難訓練・参観日の保護者参加の地震避難訓練・不審者対応避難訓練を予定通り実施できた。保護者参加の避難訓練については、年間を通した啓発活動が必要。 【働き方改革】 会議についてはほぼ時間以内に終わるようになってきた。 緊急時にはすぐーで保護者や教職員に連絡するなど、効率的に活用できた。 退勤時間が昨年度より大幅に早くなり、大体19時までに退勤できるようになった。 【効果的なOJT】 定期的に授業参観しアドバイスをすることで、初任者が授業スタンダードの流れを掴めるようになってきた。 ベテランから声掛けしたり、若年者がわからないことを聞いたりといった交流ができてきている。 【新しい学習スタイルの実践】 1学期は6年生がICT指導員からプログラミング教育の授業を受けた。今度は他の学年にも広げていく予定。	
	【防災】 1. 防災教育の推進 ・地域を巻き込んだ防災キャンプを実施する ・様々な形や時間帯での避難訓練を実施する ・地域や、保育所を巻き込んだ避難訓練を実施する ・興津小学校との交流学習を進める 【働き方改革】 1. ストレスを貯めない働き方 ・週1の退庁日厳守し、ストレスを減らす ・全ての会議を予定時間内に終了する ・行事を見直し、精選する ・各学年、教科別の教材データや掲示物の整備をし、活用する 【効果的なOJT】 ・メンター制の導入により、チーム会「ちよこつと塾」を月2回程度実施し、若年教員の主体的な実践を生かす。 【新しい学習スタイルの実践】 ・全国学力・学習状況調査や県版学力定着状況調査において全国平均正答率より+5P以上になるように思考を深め、協働的な学習を実践するためのツールとしてタブレット端末を活用する					
3年目 令和5年度						